

各日常生活圏域 協議体 開催状況

(色付き:第1回協議会で記載がなかったもの)

【資料3】

圏域	日時	メンバー	ねらい	協議事項	検討事項・見えてきたこと	今後、地域住民と進めるべき事項	コーディネーターの感想
谷津	平成30年 3月1日	・キャラバンメイト ・民生委員・高齢者相談員 ・町会 ・介護事業所 ・医療関係者 ・薬剤師 ・生協 ・新聞販売所 ・警察署 ・中学校 ・社会福祉協議会	自分たちが身近にできることを考え、地域理解を深めて支え手を増やしていく	・認知症で徘徊する女性が施設入所した事例を参考に、できるだけ地域で暮らすためにはどのようにしたら良いかを検討  ・協議体の設置に向けての協議 参加者について: 町会、認知症患者と家族、幼稚園や小学校の保護者、警察、福祉・医療の専門職、商店街、新聞配達員、金融機関、美容院、民生委員・高齢者相談員、福祉施設・病院 協議すべき内容の方向: 認知症の周知、交流の場、日々の困り事、体操を行える場所	・地域事情や住民感情による希薄さ 転入者の多いマンションでの関係の希薄さ、情報が入りにくい。 挨拶を返さない。認知症を疑う高齢者に対し声の掛け方がわからない。 高齢者への知識不足。地域でやっていることを知らない。  世代を超えて、認知症のことを学べる機会を作り、実際に交流することが出来る場所(福祉施設等)で体験する。マンション内に集いの場を作る。	認知症の方が地域で暮らせるような取り組みを協議 ＜認知症の周知、交流の場、日々の困り事、体操を行える場所＞	・参加者は、認知症のことや、歳をとってからの生活のしずらさについて、問題意識が高く意見が活発であった。 ・普段から高齢者や認知症の方に接している方が考える地域づくりの出発目線と、認知症に接することが無い方が考える地域づくりの出発目線が異なるが、後者の方が関心を持って地域づくりに参加し行動を起こしてもらえよう普及啓発を行っていく必要がある。
	平成30年 7月26日	・キャラバンメイト ・認知症カフェ担当者	認知症の方を地域で支援するための周知活動	キャラバンメイトが行っている地域での啓発活動に関する意見交換及びわかりやすい説明方法の検討	認知症サポーター養成講座及び啓発内容について 養成講座のカリキュラムは専門用語が使われているため、理解し難いこともある。また、啓発活動でも、養成講座に沿った内容にすると、同様に理解し難いことがある。	啓発活動に関する検討 ・認知症高齢者に対しては親しみやすく、分かりやすい内容 ・支援者に対しては、興味を持ってもらいやすく、活動に繋がるような内容。また、興味を持った人へのステップアップとなる講座の実施	・少人数で行ったため、参加者1人1人から多くの意見を聞けた。 ・地域の活動者の意見を聞いて、啓発活動について、より分かりやすいこと、興味を持てる内容あることが必要だと感じた。
	平成30年 12月10日	・民生委員・高齢者相談員 ・転倒予防体操推進員 ・社会福祉協議会	住民の活動場所の創出	コープみらい様より場所提供の提案があった場所の活用方法の検討	対象地域に活動している場所が不足している。活動する人が不足している。	活動の主体となれそうな人に意向確認を行い、内容等を検討する。	場合によっては、隣接する高齢者相談センターと協働する必要があると考えている。
秋津	平成29年 12月20日	・介護事業所 ・医療関係者 ・薬剤師 ・新聞販売所 ・町会 ・中学校 ・警察署 ・民生委員・高齢者相談員 ・社会福祉協議会	認知症高齢者が住み慣れた地域で安全に安心して暮らせる地域づくり  高齢化率が高く独居高齢者が多い地区。サロンに通うにも支援が必要	習志野市で行っている見守り・緊急情報について理解し、今後のあり方についてグループワーク・発表 ・行方不明者の行政防災無線についての意見交換 ・認知症高齢者への地域での見守りについての意見交換	日頃からの地域での見守りが大切である、という観点から、高齢者と地域との関係性の築き方など、地域住民や関係機関等とどのような支援ができるのかを探ってきたい。  行方不明者の捜索は、その方を知らないし難しい。情報として、よく行く場所・話し方・歩行状態等があると良い。行方不明にならないよう、近所とのつながりが必要である。	(同左) 日頃からの地域での見守りが大切である、という観点から、高齢者と地域との関係性の築き方など、地域住民や関係機関等とどのような支援ができるのかを探る。	・認知症高齢者の見守りについて現状を理解していただき、何ができるのか、様々な立場の方達から、率直な意見が聞かれ、活発な意見交換ができた。 ・今後、見守られる人となり得る方の視点についても話題を提供していきたい。
	平成30年 9月26日	・民生委員・高齢者相談員 ・サロン関係者 ・社会福祉協議会	サロンの運営者の交流の場を作り、サロン同士の繋がりを構築する。 サロンを通じた見守り活動の体制を構築する	サロンについての情報共有 ・サロン運営者からの活動内容、困難に感じていること ・その他地域で行われているサロン活動について	サロンをやりたいという話が聞かれる一方で、サロンを実施するにあたり、課題や地域の実情等を考慮する必要がある。	サロン同士の情報交換や相談できる関係性の構築を行っていく	今回はサロン運営者同士が会って話すことを目標として開催し、参加者から好評であった。 今後もサロン間の情報共有を行うことで、サロンの運営に広がりができ、地域における情報共有、発信の場となって、見守りの場にしていきたい。
津田沼・鷺沼	平成30年 2月5、6日	・民生委員・高齢者相談員 ・薬剤師 ・医療関係者 ・社会福祉協議会 ・ケアマネジャー ・地域活動員 ・シニアサポーター (市主催の養成講座受講者)	これまでの地域ケア会議(ネットワーク会議)で抽出された地域課題を掘り下げて話し合い、具体的な意見を出していく。	・グループワーク(前年度に出た地域課題から「つどい」と「家事援助・外出支援」の категорияに分け3グループずつ話し合いをした。KJ法 ①どのようなことまでなら協力できるか②ここにいない人で誰の協力があったらいいか③何があれば解決の糸口がつかめるか	「つどい」 ・担い手不足、もしくはリーダー不在 ・場所の不足 ・町会の理解 ・運営費用 「家事援助・外出支援」 ・まず地域交流、関係づくり ・保険や補償・担い手支援 ・運営のノウハウ	「つどい」 ・場所の確保:コーディネーターとして地域を把握し、店舗などへの交渉に努める。 福祉施設への協力の投げかけ ・町会に対し、民生委員等が繋がっている地域から協議を進めていく。 ・若い世代層の取り込み  「家事援助・外出支援」 ・シニアサポーターとのネットワークづくり	・テーマを絞り込み、具体化したことで深い話し合いが出来た。 ・実際に、「ちよっとしたことなら手伝える」と言う方の把握ができた。 ・今後も、同規模の協議体を開催し、徒歩圏内に何もない地域に的を絞って検討する等、地域密着な協議体を運営したい。
	平成31年 1月28日	・「サロン・つどい」団体活動代表者 ・民生委員 ・高齢者相談員 ・社会福祉協議会(第1層生活支援コーディネーター) ・ケアマネジャー	各地区のサロン・つどい団体活動を知り、今後の活動に活かす	・習志野市の現状 ・これまでの振り返りと、「くらしの応援団(協議体)」ができるまで ・各活動団体の活動内容を紹介し、「力を入れていること」「課題と感じていること」等を発表し共有する。	・支援する側も支援される側も「居場所」が必要 ・一人で支援活動するのは困難 ・担い手不足、高齢化、場所確保、新規利用者がいない、来て貰いたい人の利用がない、指導者からのフォローが必要 ・民生委員・児童委員様等、すでに地域活動をされている方の中にも、今回参加いただいた団体活動を知らなかったという声有。	・今後の担い手確保も絡め、高齢者の「サロン・つどい」団体活動周知を検討する。	・支援する側・支援される側の「居場所」となる「サロン・つどい」団体活動の代表者に集まっていたことで、情報共有ができた。 ・各団体の情報交換で、活動のヒントになる点、共通の課題を把握する事ができた。 ・次回の話し合いに向け、会議進行方法や、参加者との意見交換方法を工夫したい。

圏域	日時	メンバー	ねらい	協議事項	検討事項・見えてきたこと	今後、地域住民と進めるべき事項	コーディネーターの感想
屋敷	平成30年 2月27日	・高齢者相談員 ・民生委員 (地区会長・副会長) ・社会福祉協議会支部 ・社会福祉協議会 (第1層生活支援コーディネーター)	高齢者が住み慣れた地域でいつまでも元気に暮らすためにできること  各関係機関が行っている活動状況の共有・顔の見える関係の構築	1.高齢者相談センターの業務について<紹介> 2.第2層生活支援コーディネーター及び第2層協議体について<紹介>  3.全体の情報・意見交換 ・サロンの開催状況 ・高齢者の見守り ・ボランティアの考え方 ・地域の集いの拠点	・集いの拠点が少ない。既存のサロン等には固定メンバーが参加している。 ・担い手不足や高齢化・活動場所の閉館(公民館)のため、存続が困難な予測  小規模でも、店舗の空きスペースや商店街等、場所を開拓し、立ち上げに向けた後方支援を行う必要がある。	1. つどいの拠点となるスペースの把握 商店街やスーパー、個人店舗などに働きかけ、開催場所として活用しうるかの検討。 2. 担い手となる人材の発掘 地区ごとに、呼びかけたい人、キーとなりそうな人材への働きかけ、ネットワーク構築。 3. 地区ごとの地域課題、ニーズの把握 町会単位、自治会単位での課題を、地域住民とともに分析をし、住民主体のサービスにつなげる。	共通する思いもあり、活発に意見交換ができた。継続的に会議を開催し、連携できる関係づくりに努めたい。 会議の進行方法、テーマを検討していきたい。
	平成30年 11月16日	・高齢者相談員 ・民生委員 ・社会福祉協議会支部 ・社会福祉協議会 (第1層生活支援コーディネーター)	現在行われている活動、社会資源の情報を、各地区別に項目ごとに整理し、参加者で共有する。	・第2層生活支援コーディネーター及び第2層協議体の機能・役割について ・各地区で取り組んでいる具体的な活動について、模造紙を用い、地区・活動内容<運動・お茶のみ交流・趣味・家事支援・その他>ごとに分類し整理	・今回は、「どこにどのような」資源があるのかを把握することに留めた。 生活に習慣化されている内容を新たに知ることができた。 ・各地区や町会独自で行っている活動は、 <u>連合町会や社会福祉協議会支部が主催しているものが多い。</u>	・情報をさらに詳細に把握し、実際に関わり活用していきたい。 ・将来的なサービスの立ち上げに向けて検討していく。	・実際に生活している住民であるが故の情報が多く挙げられた。社会資源の可視化に向けたきっかけ作りができた。 ・小さい会場で開催した結果、参加者同士の距離感を縮め発言が活発だった。 今後も会議内容や手法によって、会場設営や席順にも工夫をしていきたい。
東習志野	平成30年 3月14日 5月16日	・社会福祉協議会 ・民生委員、高齢者相談員 ・生活協同組合 ・コンビニエンスストア ・配食サービス事業所 ・社会福祉法人 ・居宅介護支援事業所	第1回 ワークショップの意義や学習 テーマの理解、共有 ・圏域の状況を知る ・次回のテーマを決める  第2回 買い物資源 ・コンビニや生協ができること ・高齢者の買い物の状況 次回のテーマを決める	第1回 ・数字で見る圏域の状況 ・グループワーク 「高齢者の困りごと」「地域の困りごと」 「重要度×緊急度」の指標で振り分け 選んだ課題に対し「自分でできること」「あったらいいな」  課題は、「買物」となった。  第2回 「買物」をテーマに ・買物弱者対策についての理解 ・企業等の取組み バルシステム セブンイレブン 宅配クック1・2・3 めくもり ・高齢者の買物ニーズ アンケート、ケアプラン分析 ・グループワーク「地域の資源を共有しよう」  75歳以上のひとり暮らしの人が買い物に困りやすく、「荷物の持ち運び」「お店までの距離」の順に困る傾向にある。	第1回 コンビニにできることは結構ある、移動販売も採算に困難な問題があるなどの意見があり、販売事情や取り組みについて知らないことがあることが分かった。⇒ 次回へ  第2回 対応 社会資源を分かりやすくまとめたものの作成 付添支援・移動支援・買い物同行等資源の把握	(同左) 社会資源を分かりやすくまとめたものの作成 付添支援・移動支援・買い物同行等資源の把握	第1回 ・マトリクス自己紹介では参加者同士の会話が弾み、関係が深まるきっかけになった。 ・次回のテーマの絞り込みが出来た。  第2回 社会資源を必要な人にどのように伝えていくか、という一つの方向性として見出せた。
	平成30年 10月16日	同上	同上	・総合事業における多様なサービスの進捗状況について ・習志野市社会福祉協議会による支援の実情について ・買い物に困っている人の声 ・グループワーク「高齢者が社会資源を知る方法」	買い物に関する困りごとは社協支部や高齢者相談センターではあまり聞かれないが、実際には、歩行器具の利用や知人による送迎など、制度や支援を利用しているケースが多い。 相談機関に繋がらない、地域との関係が希薄な高齢者は買い物に困っていると思われる。	買い物に関する社会資源マップの作成	社会資源マップを作成・活用することで買い物に困っている高齢者を支援していく方向で合意が得られた。
	平成31年 1月29日	同上	同上	ワークショップの意義や学習 テーマの理解、共有 ・買い物に関する社会資源の見える化 ・社会資源マップの作成 ・次回のテーマを決める	・協議体としての目標の確認 買い物に困った住民(75歳以上の一人暮らし)がその課題に応じたサービスや制度を活用して自ら問題を解決できる。また、問題解決のプロセスにおいてネットワークが形成され孤立を防ぐことができる。  ・グループワーク「社会資源の見える化」 「マップ作りに向けた検討(どんなマップにするか)」	移動販売がいくつも来ていることは知っているが、どのようなルートでどこに滞在しているのかまで把握できていない。  社会資源マップマップについては高齢者が目にしやすいよう ・A3サイズで両面使う(冷蔵庫に貼れるサイズ感) ・圏域を2つにわけた地図を使う ・「宅配」「移動販売」など種類を分けて作るを考慮して作成する	社会資源マップに記載する社会資源の情報収集(宅配、移動販売)